

旧織田町萩野地区 - ため池群・山ぎわの水田 -



水草の豊富なため池



水草の豊富なため池

選定理由 ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 26種（面積約360ha）

自然の概要

この地域のため池には、コウホネ、ヒツジグサなどの水生植物が豊富に見られ、また、トンボ類、ゲンゴロウ類などの水生昆虫相も豊かです。また、年間を通じて湿潤な山ぎわの水田や休耕田には、イトトリゲモなどの水生植物が生育しています。

保全すべき主な環境

ため池、山田（山ぎわの水田および休耕田）

該当地の位置



里の生き物紹介 ゲンゴロウ（コウチュウ目ゲンゴロウ科）

体長が36～42mmの日本で最大のゲンゴロウで、体の縁が黄褐色をしているのが特徴です。かつてはどこにでも見られましたが、近年は非常に少なくなり減多に見られなくなっています。県内でも、1938年発行の「昆虫図譜」では、県下一円に分布するとされていましたが、最近見つかった記録は10か所程度で、従来に比べると激減していることが分かります。

ゲンゴロウは肉食で、小さな昆虫や魚などを食べて、土の中で蛹になります。このため農薬の使用による水生生物の減少や水路のコンクリート化による影響を受けやすく、減少要因の一つと考えられています。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ヒツジグサ
 県域絶滅危惧 類
 腐食栄養または貧～中栄養の湖沼、ため池に生育



メダカ
 県域絶滅危惧 類
 池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



ゲンゴロウ
 県域準絶滅危惧
 水生植物がある池や湿地・休耕田に生息



キトンボ
 要注目
 平地や丘陵地の樹林に囲まれた池沼に生息



コウホネ
 要注目
 湖沼、ため池、河川、水路に生育

丹生山地南部 - ため池群・山ぎわの水田 -



典型的な山田



水草の豊富なため池

選 定 理 由 ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 59種（面積約5,000ha）

自然の概要	山ぎわ斜面から湧水がしみ出し、所々で水田や水路へ流れ込んで湿地を形成しています。このため、この良好な環境を利用する生物が比較的多く、山と水辺の両方を利用するアベサンショウウオをはじめ、山ぎわ斜面にはモウセンゴケ・レンゲツツジなどが、休耕田にはハッチョウトンボ、オオニガナなどが生息・生育しています。また、周辺が明るく水深の浅いため池にはヒシ、ヤマトミクリなどの水生植物や、トンボ類、ゲンゴロウ類などの水生昆虫が多く見られます。
保全すべき主な環境	ため池、山田（山ぎわの水田および休耕田） 小川（土水路） 雑木林
自然保護関係法の指定	宮崎鳥獣保護区（一部）

該当地の位置



里の生き物紹介 アベサンショウウオ(サンショウウオ目サンショウウオ科)

全長80～120mmの小型のサンショウウオです。12月から1月にかけて水路で産卵し、2月には卵からかえって、6月ごろまで水の中で育ちます。その後は上陸して森へと移動します。日本では、兵庫県～福井県の狭い範囲でしか見つかっていないため、種の保存法で国内希少野生動植物種に指定され、捕獲・採取・譲渡等が禁止されています。

保全すべき環境に生息・生育している生物



アベサンショウウオ
県域絶滅危惧 類
山麓の林内に生息、湿地や休耕田の周辺で産卵



ヒツジグサ
県域絶滅危惧 類
腐食栄養または貧～中栄養の湖沼、ため池に生育



メダカ
県域絶滅危惧 類
池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



ゲンゴロウ
県域準絶滅危惧
水生植物がある池や湿地・休耕田に生息



ハッチョウトンボ
要注目
日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息

三里山 - 里山 -



三里山



クリ・コナラ林

選定理由 ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 29種（面積約1,000ha）

自然の概要	三里山の植生は、植林されたスギ林が中心で、その中にアカマツ林や雑木林が点在しています。樹高が高く、大径木のある林では、アオバズク、コサメビタキなどの鳥類、雑木林では、近年県内での生息地が減少しているエチゼンケマイマイの生息が確認されています。
保全すべき主な環境	巨木林、雑木林
自然保護関係法の指定	三里山鳥獣保護区（一部）
もっと詳しく知りたい人へ	福井県自然環境保全基礎調査報告書,p131-139 [三里山]

該当地の位置



里の生き物紹介 エチゼンケマイマイ（柄眼目オナジマイマイ科）

殻の直径が7.5mmの小型のカツムリの一種で、殻の表面には三角形の突起がたくさん生えています。滋賀県や北陸地方に分布していますが、県内では、落葉広葉樹林に局所的に生息し、落ち葉の下で生活しています。最近では、すみかが開発されたりして、5か所で全滅しているほか、個体数も急激に減少しています。

保全すべき環境に生息・生育している生物



アオバズク
県域絶滅危惧 類
大径木林などに夏鳥として渡来し、主に樹洞を利用して繁殖



エチゼンケマイマイ
県域絶滅危惧 類
里山の落葉広葉樹の落葉下に生息



サンコウチョウ
県域準絶滅危惧
大径木の社寺林、スギ林、落葉広葉樹林に生息



サシバ
県域準絶滅危惧
森林と農耕地が点在する里山に生息



コサメビタキ
県域準絶滅危惧
森林と農耕地が点在する里山に生息

あじまの
武生市味真野地区 - 湧水地 -



トミヨが生息する治佐川



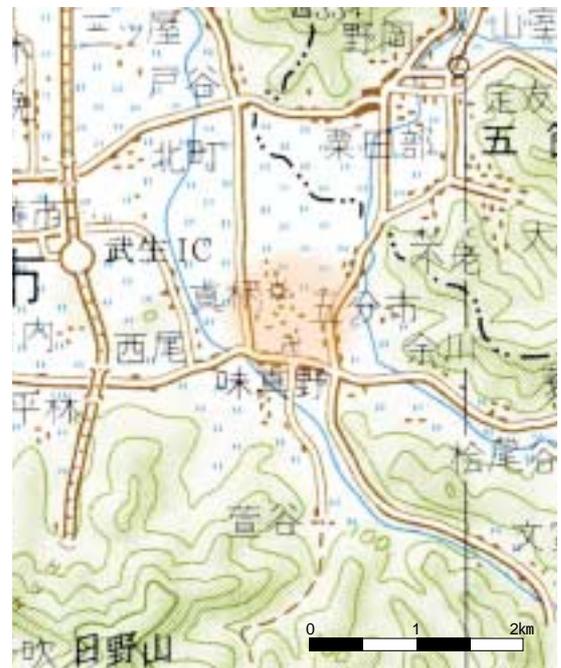
川一面に生育するバイカモ

選 定 理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）(バイカモ)の県内の代表的な生育地である ・県RDB種（トミヨ）の県内唯一の生息地である ・県RDB種が多種確認されている
---------	--

県レッドデータブック掲載種数： 16種（面積約20ha）

自然の概要	扇状地である味真野地区には、湧水地が何か所か点在しています。このうち、最も湧水量が多いのが清水頭町と上真柄町の境界にある湧水で、治佐川となって流れています。この川には、清流を好むバイカモや巣作りをする魚として知られるトミヨが生息・生育しています。トミヨの県内唯一の生息地であり、日本の南限とされています。
保全すべき主な環境	湧水地とその集水域、小川（湧水の流れ込む河川）
もっと詳しく知りたい人へ	福井県のすぐれた自然動物編,p156 [武生市上真柄町のトミヨ]

該当地の位置



里の生き物紹介 トミヨ（トゲウオ目トゲウオ科）

北国に多い魚で、シベリア、樺太、北海道に多く、本州では青森～福井の主日本海側に分布しています。県内では、鯖江市五郎丸町と武生市味真野地区に分布していましたが、現在では湧水地の埋め立てや水質悪化などにより、武生市味真野地区の一部のみになってしまいました。

保全すべき環境に生息・生育している生物



トミヨ
 県域絶滅危惧 類
 湧水池とその流水路にすむ。
 水温15 前後の水の澄んだ砂
 泥底で、水草のある所を好む



タマシギ
 県域絶滅危惧 類
 湿田、ハス田、セリ田や
 生活排水が流れ込む休耕
 田に生息



バイカモ
 県域準絶滅危惧
 湧水のある河川、水路、
 池に生育